

定價（雜誌）一部二十錢郵稅并
雜誌（特別欄）二頁金廿圓
廣告料（普通欄）一頁金卅圓
發行兼編輯 吉田五平
印刷人
福島縣平町字南町七一
發行所 磐城（公）友社

近
く
圓
滿
解
決
か

本縣町村長會では去る十七日通常總會を開催し縣下各町村吏員にして多年町村自治事務に精勵し其功績顯著なる者、又は其擔任事務整理良好に

衆議院建議委員會可決

常磐石炭の運賃引下げ問題は數年來議會に建議されてゐるが今年も比佐、鈴木兩代議士から提案された、而して同建議案はさる十九日衆議院建議委員會に於て審議されたが同席上に於て比	炭の如きも之が爲め高價になり困り拔へてゐる、何とかして値下げを實施せらるゝやう努力せられたい
佐昌平氏は	之れに對し鐵道省新井運輸局長から

本案は毎年議會に建議され可決を見てゐるが未だ實現の運びに至らざるは誠に遺憾である、御承知の如く常磐炭の運賃は九州方面から輸送されるものに比し非常に高く従つて炭價の高騰を餘儀なくされ又常磐炭の最得意先たる製糸家が使用する粉

常磐炭の輸送運賃が他の石炭運賃に比し高いのは誠にお氣の毒であるが、一／＼止むを得ない事情もあり、又鐵道省として此の問題についてはまづ研究中であるが他の石炭との振合上引下げが困難である、併し近くは名濱から海路輸送も出來

石城郡では馬目、松崎兩氏

赤井村書記

氏は明治四十四年七月同村

觀光客誘致策
猛進

顯著なる者
廿七名に對し表彰狀並に記念品を授與されたが、内石城郡内で此榮譽を擔へたる吏員は左の二氏である

湖南地方は昔から夏の行樂避暑地として都人士から頗る好適され、年々雲集する老弱男女で埋められてゐるが、近年漸く同地方に飽きたる

勳八等馬日武助氏

氏は明治四十二年十月同町書記を拜命大正七年四月一時退職したが再び書記として勤務今日に至つたのであるが其間稅務事務を擔任するに足るので曩に勿來、平

植田町の發展

一日半に一名の出産

生めよ殖いよ植田町!!

植田町の發展は日を追ふに從つて目曜しいものがある

同町の九、十年度の人口を調査すれば九年度六千五百十八人、十年度六千六百十人、十年前度よりも十五人の増毎年十月一日現在を示し世帯數九年度一千一百四十、十年度一千一百七十五、三十五の増を示して居り

出生死亡は九年度出生二四

一人、死亡一四三人、十年度出生二七一人、死亡一八

一人であり平均一日四分弱

で一名の出生を見るわけ

この分へ行くと一日一名の

出生も近き將來を統計に見

るであらうと見られてゐる

石城 警親會總會

殉職者並に物故者

慰靈祭舉行

平警察署現職幹部及退職警

磐城公友社

おわび

本月號は公私多用の爲め
雑誌の編輯は間に合はず
小新聞として發行したる
ことを讀者各位にお詫び
致します

慰靈祭
記念塔
除幕式

既報回顧すれば三年前五
名町永崎海岸に練習飛行中
墜落惨死した増田、島田兩
海軍少佐の靈を慰むべく命
日の昨廿四日忠烈護空碑前
に於て遺族を招き同町主催
で慰靈祭を執行されたが折
柄本縣海軍在郷軍人海上點
呼に廻航された本會巡洋艦
より石塚兵曹長指揮の陸戰
隊も參列した、それに當時
同乘して居て奇蹟的に生存
した三浦特務中尉が兩上官
の殉職を悼み靈を慰むべく
布施水雷(機雷)砲彈、爆彈
プロペラ等をはいて建立
した記念塔の除幕式も併せ
て兼ね行はれた

